

研究ノート | Research Notes

小学2年生「道徳」の授業に関する事例研究
— 毎学期の振り返り項目とその理由に焦点を当てて —

Case Study of 2nd Grade "Morality" Class
— Focusing on the Reflection Items and Reasons Every Semester —

仲井 勝巳

NAKAI, Katsumi

尚美学園大学

総合政策学部非常勤講師

Shobi University

2023年3月

March.2023

小学2年生「道徳」の授業に関する事例研究 — 毎学期の振り返り項目とその理由に焦点を当てて —

仲井 勝巳

Case Study of 2nd Grade "Morality" Class —Focusing on the Reflection Items and Reasons Every Semester—

NAKAI, Katsumi

[要旨]

本研究の成果は、毎学期の道徳授業の振り返りから、小学2年生の児童が最も考えた項目とその変容を明らかにしたことである。また、その項目を、児童の振り返り記述や板書等を基に、道徳的価値に着目し、事例的に整理したことである。しかし、振り返り記述に関して、道徳的価値が読み取れない児童も一定数いることがわかった。よって、毎学期の振り返り記述の指導方略を工夫すること、他学年での振り返り指導を検討することを示唆した。

[Abstract]

The outcome of this study was to clarify the items that 2nd grade elementary school students considered most and their changes based on the reflection of moral lessons every semester. In addition, the items were arranged as examples, focusing on moral values, based on the reflections and writings on the blackboard. However, it was found that there were a certain number of children who could not understand the moral value of the reflection description. Therefore, it was suggested to devise a teaching strategy for reflection writing every semester and to consider reflection teaching in other grades.

キーワード

小学2年生, 道徳, 振り返り, 毎学期, 事例研究

Keywords:

2nd Grade, Morality, Reflection, Every Semester, Case Study

1. はじめに

文部科学省(2018)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」の『特別の教科 道徳編』において、目標の中に「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値

についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」とある。ここで、「自己を見つめること」と「物事を多面的に・多角的に考えること」に着目した。児童は、学校・家庭・地域社会の中で育っている。その中で、道徳の授業だけではなく、普段から道徳的価値を見出す経験、気づく価値観を日常生活から少なからず体験していると考えられる。

これまでの先行研究では、学校、学年、クラス、学活、総合、地域社会、各教科の視点などを含め、道徳授業は工夫され、それらの事例は多く紀要や実践論文、研究論文で見受けられる。例えば、興儀峰奈子（2015）は、米軍駐屯地の小学校で、非言語情報伝達のジェスチャー（身振り）を小学1年生の道徳授業で実践し、その1年間の授業実践のビデオ記録から、授業内容を理解させるという目的だけではなく、低学年児童の興味と集中力を持続させ教室に規律を保たてさせるためにも有効であることを明らかにした。また、仲井（2022）は、小学2年生における1年間の道徳授業の実践で、各学期に取得したアンケート結果から、1年間の授業でよりよく生きるために大切なことを児童が考えられた内容は、「主として人と関わること」であること、次に「主として集団や社会との関わりに関すること」、「主として自分自身に関すること」、そして、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の順であることを明らかにした。このことから、「主として人と関わること」が最も多いとされるが、児童一人ひとりの1年間の学びの変容は、明らかになっていないことが指摘される。これまでの先行研究や各学校の紀要、研究授業などで、1つの授業事例を取り上げて、教師の発問、児童の学習の様子を記録し、研究討議をする傾向は多く見られる。そのような背景から、1年間における道徳授業に着目し、児童が振り返る際に、どのように学びを深めたのかを多面的に議論することが重要ではないだろうかと思える。

よって、本研究は、毎学期の振り返りにおいて、児童がどのようなことを学んだのか、「自己を見つめること」や「物事を多面的・多角的に考えること」を、振り返り記述の場面を設定し、どのような道徳的価値を見出すことができたのかを考察していく。そして、学習内容(板書や振り返り記述等)を基に、児童がどの項目を選択し、よく考えることができたのかを事例的に考察していくことを目的とする。

2. 方法

日本国内にあるA小学校2年B組31名を対象とし、2019年度の1学期から3学期において、道徳の授業時間に実施した。学期終了時に振り返りのアンケートを取得する際に、欠席児童に関しては「欠」とした。取得する際に、指導者が文章を読み上げて丁寧に説明を行い、児童がよりよく生きるために大切なことをよく考えることができた題名を3つ選択させた。さらに、その中で最もよく考えることができた内容を1つ選び、その理由を記述させた。この振り返り指導方略では、児童が内容項目を選択し、理由を書きやすいようなワークシート(図3)を作成し、児童の学びをより明確なものとなるように試みた。

児童が選択した内容項目に関して、A「主として自分自身に関すること」、B「主として人と関わること」、C「主として集団や社会との関わりに関すること」、D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」とした。それらの結果を学期や項目、記述内容

や毎学期の変化をまとめた。さらに、道徳授業以外にも、学級活動の工夫、各教科の視点も取り入れた。図1では、1学期にクラス目標を決めた時の資料である。児童は、どのようなクラスにしたいのかを始業式のクラス開きに問いかけ、1日自宅でじっくり考えることを宿題（なお、配布した新しい教科書などに記名することも宿題に出した。）とし、翌日に児童一人ひとり、考えたことを発表させ、発言した内容（明るい、楽しい、優しい、助け合えるなど）やキーワードをつなげ、児童の考えや思いを反映させてクラス目標を作り上げた。そして、図工の時間も活用し、一人ひとり1枚以上の言葉をかき、色を塗り、模造紙に貼って完成させ、教室に掲示した。このクラス目標の内容には、道徳における「判断力」や「心情」「実践意欲」（例えば、「人にやさしくて」）に繋がることも考えられる。図2は、児童が発表しやすいような教室掲示である。発表の仕方、聞き方（聴き方）を視覚的に児童が確認しやすいように掲示し、クラス内での言語活動の充実、主体的・対話的な学びに寄与するように工夫した。

毎時間の道徳授業においては、基本的に、教科書、準拠ノートを活用した。また、学びが深まるようなワークシートも授業によっては活用した。例えば、「いいところさがし」などの手紙を作成する場面などである。授業を行う上で、①まずは自分で考える（主体的な活動）。→②友達・クラス全体に伝える（対話的な活動）→③日常生活に活かす（深い学び）。となるような指導に取り組んだ。さらに、ネームプレートを活用したり、ICT機器で電子黒板に映像を見せたり、板書で普段の児童の生活経験を想起させて、教材を通し道徳的価値に気づかせたりできるようにした。



図1. クラス目標を決める（学活・図工の時間）

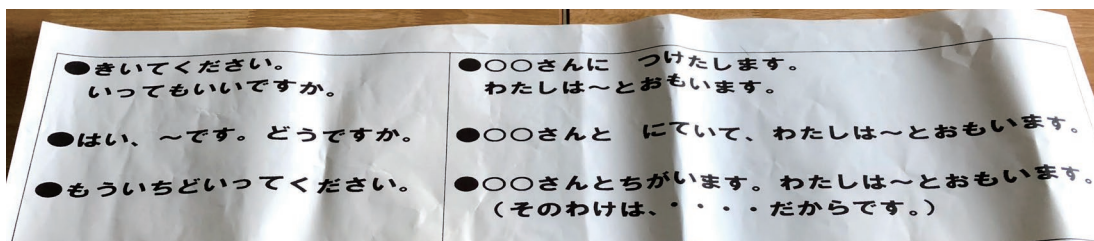


図2. 児童が発表しやすいような教室掲示

あなたが…「よりよく生きるために たいせつなこと」をよく考えることができた だい名は 何ですか？
3つえらびましょう。() の中に、○を3つ書いてください。

- ① おおきくなったね……………()
- ② 金のおの……………()
- ③ わたしたちの校歌……………()
- ④ ぼんたとかんた……………()
- ⑤ 本がかりさん がんばっているね……………()
- ⑥ およげないりすさん……………()
- ⑦ いいところ みいつけた……………()
- ⑧ ありがとうって言われたよ……………()
- ⑨ わりこみ……………()
- ⑩ 虫が大すき —アンリ・ファーブル—……………()
- ⑪ ぎおんまつり……………()
- ⑫ タヒチからの 友だち……………()
- ⑬ 花火に こめられた ねがい……………()

一ばん、よく考えることができたのは、
() ばんです。
りゆうは、

だからです。

図3. 1学期の振り返りワークシート (2～3学期も同様に実施)

3. 結果と考察

まず、毎学期に取得したアンケート項目の結果一覧を表1に示す。この時に、最もよく考えた項目で9, 11, 20, 22, 23, 24, 29, 35を選択した児童はいなかった。しかし、毎学期の振り返りで、項目3つを選択した際には、どの項目も選択する児童は確認した。これらの結果から、各学期において、児童の振り返り記述に着目し、考察していく。

表1. 毎学期の振り返り項目

項目	1学期の学習項目のタイトル (内容)	人数	項目	2学期の学習項目のタイトル (内容)	人数	
1	おおきくなったね (D)	3	14	あぶないよ (A)	3	
2	金のおの (A)	2	15	ーりん車 (C)	1	
3	わたしたちの校歌 (C)	1	16	お月さまとコロ (A)	1	
4	ぼんたとかんた (A)	4	17	なわとび (A)	1	
5	本がかりさん がんばっているね (C)	3	18	きまりのない学校 (C)	3	
6	およげないりすさん (B)	3	19	たけしの電話 (B)	1	
7	いいところ みいつけた (A)	3	20	おじさんからの手紙 (C)	0	
8	ありがとうって言われたよ (B)	1	21	三びきは友だち (C)	3	
9	わりこみ (A)	0	22	ある日のくつばこで (A)	0	
10	虫が大すき —アンリ・ファーブル— (D)	7	23	くりのみ (B)	0	
11	ぎおんまつり (C)	0	24	どうしてないているの (A)	0	
12	タヒチからの 友だち (C)	1	25	やくそく (D)	2	
13	花火に こめられた ねがい (C)	3	26	きつねとぶどう (B)	8	
1学期の合計			27	おばちゃんお元気ですか (C)	1	
			28	さて、どうかな (B)	1	
			29	ドッジボール (C)	0	
			30	ぐみの木と小鳥 (B)	6	
			2学期の合計			31
項目	3学期の学習項目のタイトル (内容)	人数				
31	なまけにんじゃ (A)	6				
32	七つの星 (D)	1				
33	あいさつがきらいな王さま (B)	7				
34	森のゆうびん屋さん (C)	2				
35	「生きているから」 (D)	0				
ふ1	るっべどうしたの (A)	3				
ふ2	どうぶつのかくれんぼ (D)	5				
ふ3	ハンナのなみだ (C)	5				
3学期の合計						29

3.1.1 学期の結果と考察

表2は、1学期の振り返りにおいて、児童が最も考えることができた項目とその理由を書いた一覧である。

児童⑩は「わたしたちの校歌」で「とてもだいで、どの学校にある。入学しきや、そつぎょうに歌われる歌だからです。」と振り返っていた。図4の板書より、この教材から校歌を歌うこと、学校についてどのように思っているのかを考えさせる。そして、A小学校の校歌にある「ねがい」について、「みんなが明るい」「きぼうがある」「ゆたかな心をそだててほしい」などに気づいていることがわかる。よって、この児童⑩は、C「主として集団や社会との関わりに関すること」において、「入学式や卒業式に歌われる大事な歌である。」という「道徳的な心情」を学期末に振り返ることができたと考えられる。

児童②⑨は、「ぼんたとかんた」で「あぶないところがどこにあるのかどんなときにおこるかをせつめいをしっかりおしえてくれたからです」や「友だちをたいせつにするときづけたからです」と振り返っていた。図5の板書より、「よいこととわるいこと」についてぼんたやかんたの行動を基に、ネームプレートを使って児童の考えを共有し、日常生活場面の想起を行う流れとなっている。児童の中には、電車の中で席を年配の方に譲った経験、三輪車を元の場所に戻す際に手伝ってくれた時の経験などから深めることができたと考えられる。よって、学期の振り返り場面において、A「主として自分自身に関すること」について、児童②は、「危険個所を避けることの説明」が読み取れることから、「道徳的な判断力」を養う視点を持ち、児童⑨は「友達を大切にすることに気づく」ことから、「道徳的な心情」を養う視点を持ったと考えられる。

表2. 1学期に実施した児童の振り返り記述の結果

番号	項目	1学期の振り返り
①	7	記述無し（項目のみチェックあり）
②	4	あぶないところがどこにあるのかどんときにおこるかをせつめいをしっかりおしえてくれたからです
③	7	自分のいいところにも気づけたし、自分のいいところがいいに友だちの気づけた
④	2	きこりがとてもしょうじき
⑤	9	わりこみを、ほくにやられたからです
⑥	4	こうえんへいってかんだは、うらやまに入るとぼんたが大きなこえでさけんでかんだがとびだしたのがおもしろかったから、一ばん考えることができた
⑦	2	やりたかった
⑧	4	ぼんたが「ぼくは行かないよ」といっていなかったら、かんだはけがをしていた
⑨	4	友だちをたいせつにすると気づけたからです
⑩	7	いいところを考えたところです。
⑪	6	りずさんがおよげないから
⑫	6	りずは、およげないからおしえてあげたいし、かわいそうだから
⑬	8	ありがとうって言ってくれたらとてもうれしい気持ち
⑭	6	りずさんがいけのしまにいけずに、こまっているとかめさんがいいかんがえがある
⑮	13	はなびにこめられたことは入っているからはなびってそうやってつくったんだね。すごいとおもってすごかったです。あのときはすごかったです。りゆうはこうゆうことをやってすごい
⑯	13	はなびにはいろんなねがいがいっぱいまつているんだなと思った
⑰	13	花火にそんなねがいがこめられていると知らなかったから
⑱	5	考えやすかった
⑲	3	とてもだいで、どの学校にある。入学しきや、そつぎょうに歌われる歌だからです。
⑳	5	自分もがんばりたいことがあったからです。
㉑	12	アイトとぼくとおにいちゃんとなかよくできたから
㉒	5	本がかりはみんながたのしめる本をもってきたりみんながちゃんといれてないからかたづけたりしていた
㉓	10	自分も虫がだいすき
㉔	1	おおきくなったらどうなるかわかるから
㉕	10	ファーブルが虫をすきになったことが一ばんよく考えることができた
㉖	1	1さいのときより、今のほうが大きいから、よくかんがえることができた
㉗	10	虫が大すきなアンリファーブルさんはとても虫が大すきでとてもいいおはなしだし、アンリファーブルさんはとても虫が大すき
㉘	10	生きものをたいせつにしてけんきゆうまでしている
㉙	10	虫をいっぱいかんさつできてすごいし、虫をこわがらずにかんさつできるのがすごい
㉚	10	アンリファーブルさんは、こん虫きをつくってすごい
㉛	10	アンリファーブルさんのちょうちよがおもしろかった

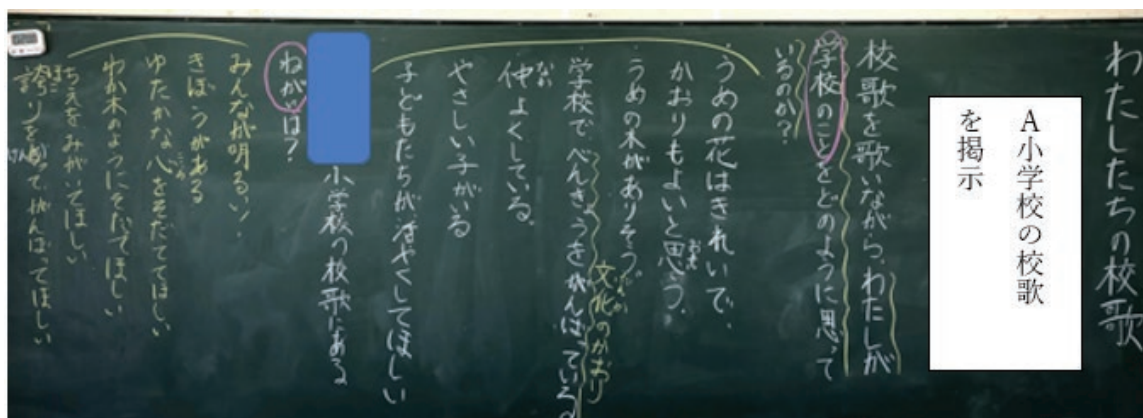


図4. 1学期の板書記録「わたしたちの校歌」(C)

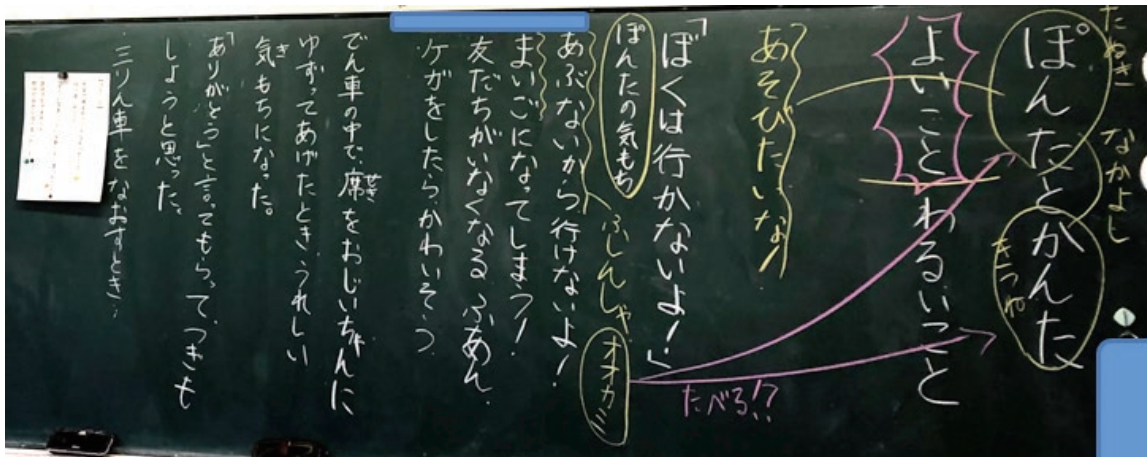


図5.1 学期の板書記録「ぼんたとかんた」(A)

3.2.2 学期の結果と考察

表3は、2学期の振り返りにおいて、児童が最も考えることができた項目とその理由を書いた一覧である。

児童②は、「やくそく」で「こうつうルールをまもらなかったらじこになるので、こうつうルールをちゃんとまもらないとだめ」と振り返っていた。図6の板書より、「赤信号で横断歩道を渡ってしまったこと」の気持ちを考え、多くの人が集まってくれたことの心情を考えていった。そして、自分の命について、家族や親戚、友人等から見たら大切であること、また、交通ルールを守ることにについて考えることに迫る内容であった。よって、学期の振り返り場面において、D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」について、児童②は「交通ルールを守らないとだめ」という振り返り記述から、「道徳的な判断力」を養ったと考えられる。

児童⑩⑪は、「きつねとぶどう」において、「おやにしんぱいをかけないようにしようと思ったから。」と「おやぎつねが子ぎつねをにがしてつかまったかもしれないけど、おやぎつねがそれだけ子ぎつねを大切にしていたんだなと思ったからです。」と学期の振り返りで記述していた。図7より、「きつねとぶどう」の板書より、家族に心配をかけた経験（うそをついたこと、迷子になったことなど）を児童から思い出させ、子ぎつねや母ぎつねの心情を考えていく流れになっている。よって、学期の振り返り場面において、B「主として人と関わること」について、児童⑩は、「親に心配をかけないようにしようと思う」とあることから、「道徳的な実践意欲」を、児童⑪は「親きつねが子ぎつねを大切にしていると思った」ことから、「道徳的な心情」を養う視点を持ったと考えられる。

表3. 2学期に実施した児童の振り返り記述の結果

番号	項目	2学期の振り返り
①	14	ごろなあだたげんに
②	26	お母さんがじ分の子どものためにじぶんだけしんでしまったし「ママおなかへった。」といったからとおくのぶどうをとりいってとりいったからです。
③	30	ぐみの木と小鳥の話を読んでわたしも小鳥のように、ほかの人にもしんせつにしたいと思ったからです。
④	30	小鳥さんがりすさんにぐみをもってりすさんがげんきになった
⑤	21	びよんたは、わんたにやさしいけどびよんたはボンキチにやさしくないからです。
⑥	27	ぼくのやったのはかんたんなので、ほかの人にもできる
⑦	21	何をしたらいいか何をすればダメなのかわかったから
⑧	18	がっこうにきまりがないとみんながごちゃまぜになるかもしれないとおもったからです。
⑨	21	えこひいきをしらなくて、そのことをよくしれた
⑩	15	だめなことをやったらかえってくるということがわかったからです
⑪	30	小鳥がりすのためにあらしの中をとんでいったから
⑫	26	おかあさんのきつねがかわいそうになってにげてこどもがおなかですいてたから、ぶどうをおいて「ありがとう」といっていたからです。
⑬	26	おかあさん帰ってこないのかなと思ったから。おかあさん帰ってくるのかなと思った。
⑭	18	きまりがない
⑮	26	ちょっとかんだうしたお話だったから、よくかんがられたのと、いっぱいかけた
⑯	26	おやにしんばいをかけないようにしようと思ったから
⑰	26	おやぎつねが子ぎつねをにがしてつかまったかもしれないけど、おやぎつねがそれだけ子ぎつねを大切にしてたんだなと思ったからです
⑱	28	いけないことといいことをだめだとすぐわかったからです。
⑲	30	りすさんがびょうぎで小鳥さんがぐみのみをもって行って、まいにちもって行ってあげてまるで友だちが家ぞくみたい
⑳	18	きまりがないないし、きまりがなかったらルールがなくてけんかをしてしまうからです。
㉑	25	こうつうルールをまもらなかったらじこになるので、こうつうルールをちゃんとまもらないとだめ
㉒	25	青になってないのに、とびだしたらきけん
㉓	16	さいしよはもんくばっかり行ってたけど、もう友だちがいなくなってもんくいうのはやめてうたをうたってこれからはやさしくなった
㉔	14	自分のいのちにつながる
㉕	14	ふしんしゃにつれられない大切さをしたからです
㉖	17	いまは、二十とびができたけど、このはなしをよんだときは、できなかったからきづくことができた
㉗	26	きつねのお母さんの声で、こどももありがとうといったからです。
㉘	19	ことばづかいがよかったからです。
㉙	30	嵐がふってきてつらいなか、小鳥は嵐がぜんぜんやみそうにないから嵐にまけずに、がんばってりすのところまでとどけたところ。どうしてかという、そうゆう人がいれば心強いからです。
㉚	26	子ぎつねのお母さんが帰ってこないから、子ぎつねがかわいそう
㉛	30	小鳥さんがりすさんにぐみをもってきてくれたからです。

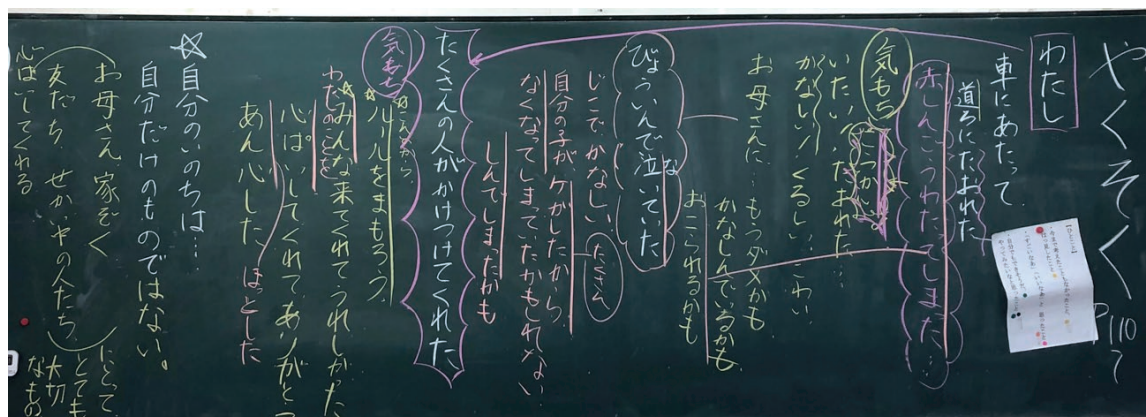


図6. 2学期の板書記録「やくそく」(D)

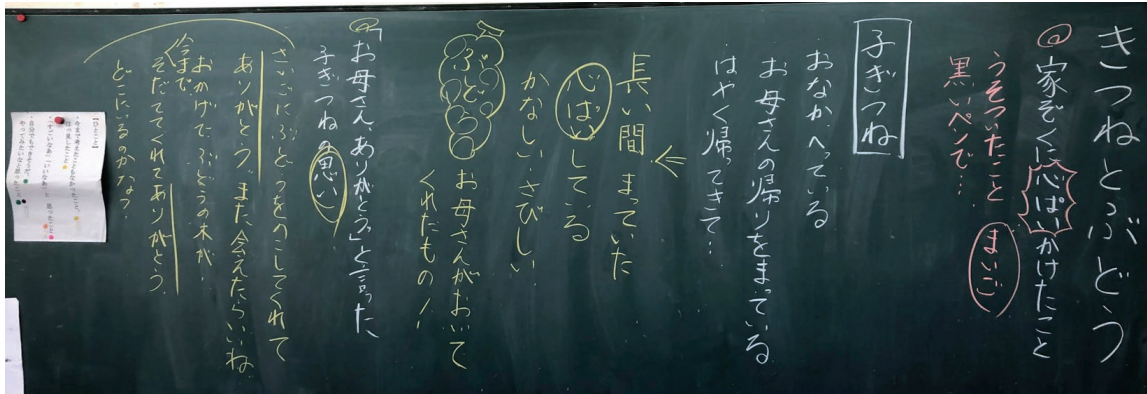


図7. 2学期の板書記録「きつねとぶどう」(B)

3. 3. 3学期の結果と考察

表4は、3学期の振り返りにおいて、児童が最も考えることができた項目とその理由を書いた一覧である。

児童⑧は、「あいさつがきれいな王さま」で「あいさつというものは一ばんだいじと思ったからです」と振り返っていた。図8の板書より、挨拶が嫌いな王様は、日に日に挨拶を禁止したが、歌をきいて挨拶すると楽しい、すっきりすることに気づいた。その学習の流れで、児童は日常生活において家族とあいさつをするとすっきりすることができるなどの考えを共有した。これはB「主として人と関わること」の内容である。また、児童⑧の「挨拶が一番大事だと思った」という学期の振り返り記述から、「道徳的な価値観」を養う視点を持ったと考えられる。

児童⑨が「森のゆうびん屋さん」において、「とてもいいお話だし、絵のはいけいがとてもきれい。」と学期の振り返りで記述していたことに着目する。図9より、「森のゆうびん屋さん」の板書より、学級での係活動、日直の当番の仕事を頑張っているかどうか確認し、この教材でくまさんがやぎじいさんの家に郵便を配達することを通し、くまさんの心情を考え、また児童の日常生活における係活動などの心情を考えていった。この教材は、C「主として集団や社会との関わりに関すること」についてであるが、児童⑨は、「とてもいいお話。絵の背景がとてもきれい。」ということが理由記述としてあった。しかし、この記述内容は、どのようなことが「とてもいいお話」で「道徳的な心情」を養ったのか、また、「絵の背景がきれい」という内容は、「道徳的な判断力、心情、実践意欲」のどれにも該当していないと考えられる。このことから、児童⑨が選択した項目の理由記述に関しては、道徳的な判断力、心情、実践意欲が読み取れないことがわかった。よって、具体的に学期末に振り返られるような指導方略の工夫が必要であると考えられる。

表4. 3学期に実施した児童の振り返り記述の結果

番号	項目	3学期の振り返り
①	32	ほしがかいはんわです
②	ふろく1	あさわたしもおきるのがつらいし、いらいらしたことをひとにやつあたりをするのはいけないと思ったから
③	33	あいさつの大切さがわかったからです。
④	ふろく2	どうぶつのからだの色をかえられるから
⑤	31	なまけにんじやにさそわれないようにしよう
⑥	31	なまけにんじやは、なにかをやると、なまけにんじやが子どもなまけると、よくわかることになった
⑦	33	あいさつはしたほうがいいなと思った
⑧	33	あいさつというものは一ばんだいじだと思ったからです
⑨	34	森のゆうびんやさんのきもとがよくがんばった
⑩	欠席	
⑪	31	なまけにんじやにめいれいされてテレビとかをつけてくれといわれてテレビを見る
⑫	31	なまけにんじやがおもしろいしやりやすかったからです
⑬	ふろく2	かくれるのがとてもすごかった
⑭	ふろく3	いい話だから
⑮	31	あんなのはなりたくない、いうのがおもしろかった
⑯	33	あいさつをちゃんとするんだっておもったからです
⑰	ふろく3	かなしいけど、かんどするしおわかれのときがかなしいから
⑱	ふろく2	どうぶつがすごいなと思ったから
⑲	欠席	
⑳	ふろく3	文が長くてよく考えれたから
㉑	31	なまけにんじやがでていくほうほうがほーりなげることがおもいついてスッキリになった
㉒	ふろく3	さいしょははなせなかったけど、おかあさんのおかげでなよくなった
㉓	ふろく1	わるいことをしてちゃんとよんでルールをまもろうと思ったからです
㉔	㉓	あいさつをしないことはどんなことか知りたいです
㉕	ふろく1	とても外国人がきたときのことをおぼえることができた
㉖	ふろく2	どうぶつのからだの色について、ふかくかんがえられた
㉗	ふろく1	るっぺはみんなにいやがらせをしたりおしえてあげたいし人にやつあたりくなくないようにはやねはやおきすると人にやつあたりしないのでできるかたです。
㉘	33	あいさつをしようとおもったり、あいさつをするようになった。
㉙	34	とてもいいお話だし、絵のはいけいがとてもきれい
㉚	ふろく3	ハンナとよし子がなくてかわいそう
㉛	ふろく2	かくれんぼをしているときにつかまえたりしたいから

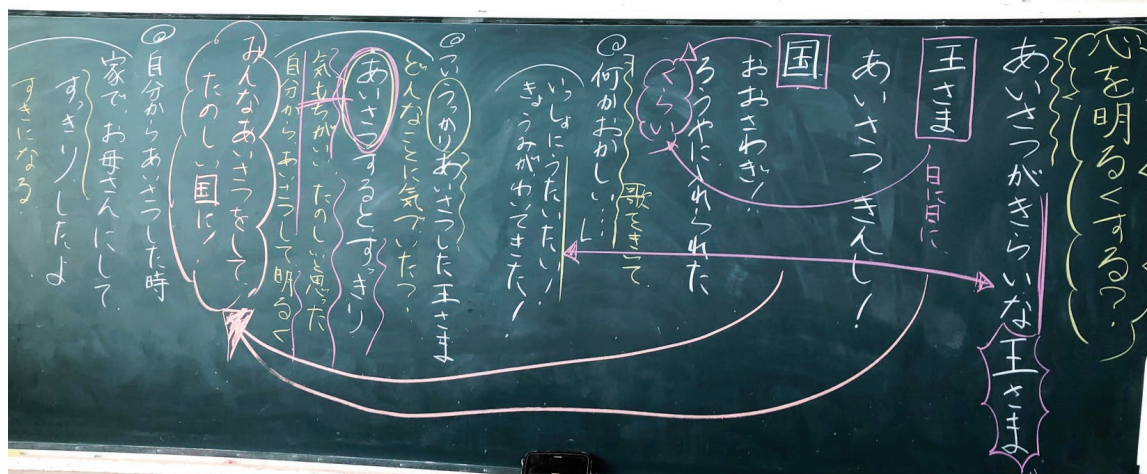


図8. 3学期の板書記録「あいさつがきれいな王さま」(B)

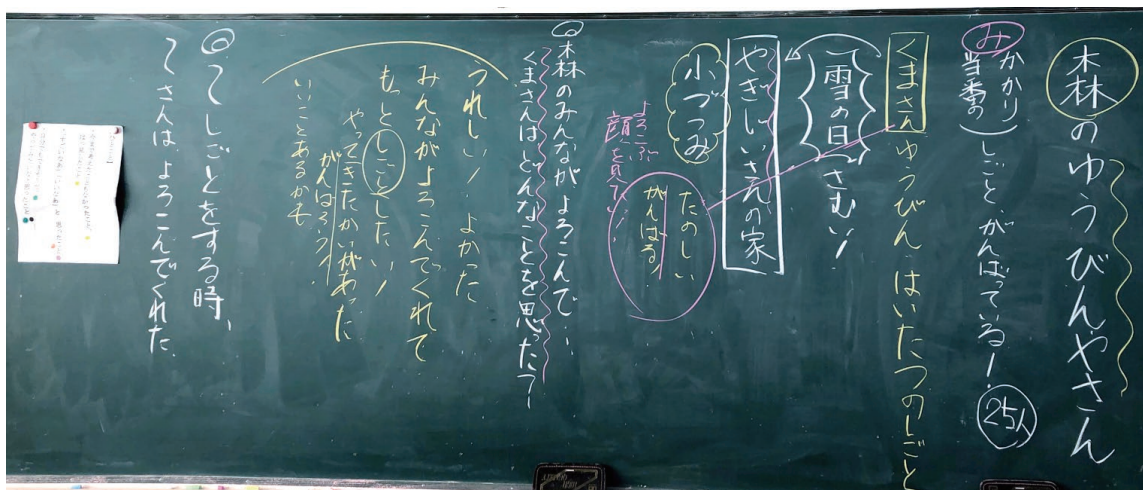


図9. 3学期の板書記録「森のゆうびん屋さん」(C)

4. 総合考察とまとめ

表1～4から、児童の毎学期に最も選択した項目を、図10にまとめた。さらに、小学2年生の道徳において毎学期の振り返りから、内容項目の変容の概要を、図11にまとめた。これらの結果から、本研究において、毎学期の振り返りを行うことで、児童一人ひとりが選択し、振り返った項目とその変容が明らかになった。

また、毎授業の振り返りに関しては、教師と児童とのやり取り、児童同士の学び合いからの板書、準拠ノート（図12）の活用によって展開されていた。毎回の道徳の学びではなく、学期全体の振り返りという指導の観点から、本研究は、児童の学期末における道徳的価値を項目ごとの振り返りを基に、明らかにすることに比重を置いた。さらに、準拠ノートにも、1年間の振り返りを行う箇所があり、「わたしたちの校歌」について心に残ったことの記述を確認した。また、学級経営においても、適宜クラス目標や児童の日常生活との関連性で、道徳的価値に気づくような機会を設定した。例えば、運動会や学習発表会に向けて、指導者は、クラス目標を基に、友達、クラスのことを考えて、力を合わせて取り組んでみよう、声をかけるなどして工夫した。

しかし、本研究の課題も明らかになった。まず、諸事情で欠席した児童もいること、1クラスの事例研究であることから、一般化は難しいといえる。さらに、児童の振り返り記述の中には、道徳的な判断力、心情、実践意欲に関するものが確認できない記述があった。よって、毎学期に実施した振り返りのワークシートを、児童が具体的に、学んだことを想起して、書きやすいように検討する必要がある。また、指導者は、児童が振り返りをする際に、書くことに課題がある児童に対して、個別指導を工夫する必要があると考えられる。

本研究の展望として、次のことが挙げられる。本研究は、小学2年生の実践研究である。そのため、他学年での実施も期待できるのではないだろうか。発達段階を考えて、小学1年生の場合は、1学期は学校生活に慣れることや読み書きを初めて習うことを鑑み、1学期からの実施は難しいと推測される。もし、実施するなら、2学期以降が妥当かと思われる。また、小学1年生は、本研究対象の小学2年生と比べ、個別指導の工夫がより求められることも考えられる。しかし、小学3年生以上であれば、毎学期の道徳授業の内容を振り返

ることで、その学期で学んだ内容において、より確かな道徳的価値に気づき、深められる学習活動が期待されるのではないだろうか。

以上より、本研究の成果は、毎学期の道徳授業の振り返りから、児童がテーマごとに最も考えた項目とその変容を明らかにしたことである。また、その項目ごとに関して、児童の振り返り記述や板書等を基に、道徳的価値に着目し、どのような学びがあったのかを事例的に考察したことである。しかし、振り返り記述に関して、道徳的価値が読み取れない児童も一定数いることから、毎学期の振り返り記述の指導方略の工夫や、他学年での振り返り指導方略を検討する必要があるといえる。

番号	学期毎の変化	番号	学期毎の変化	番号	学期毎の変化	番号	学期毎の変化
1	A→A→D	11	B→B→A	15	C→B→A	23	D→A→A
2	A→B→A	12	B→B→A	16	C→B→B	24	D→A→B
3	A→B→B	13	B→B→D	17	C→B→C	25	D→A→C
4	A→B→D	14	B→C→C	18	C→B→D	26	D→A→D
5	A→C→A			19	C→B→欠	27	D→B→A
6	A→C→A			20	C→C→C	28	D→B→B
7	A→C→B			21	C→D→A	29	D→B→C
8	A→C→B			22	C→D→C	30	D→B→C
9	A→C→C					31	D→B→D
10	A→C→欠						

図 10. 対象児童の学期ごとの振り返りによる項目の変化について

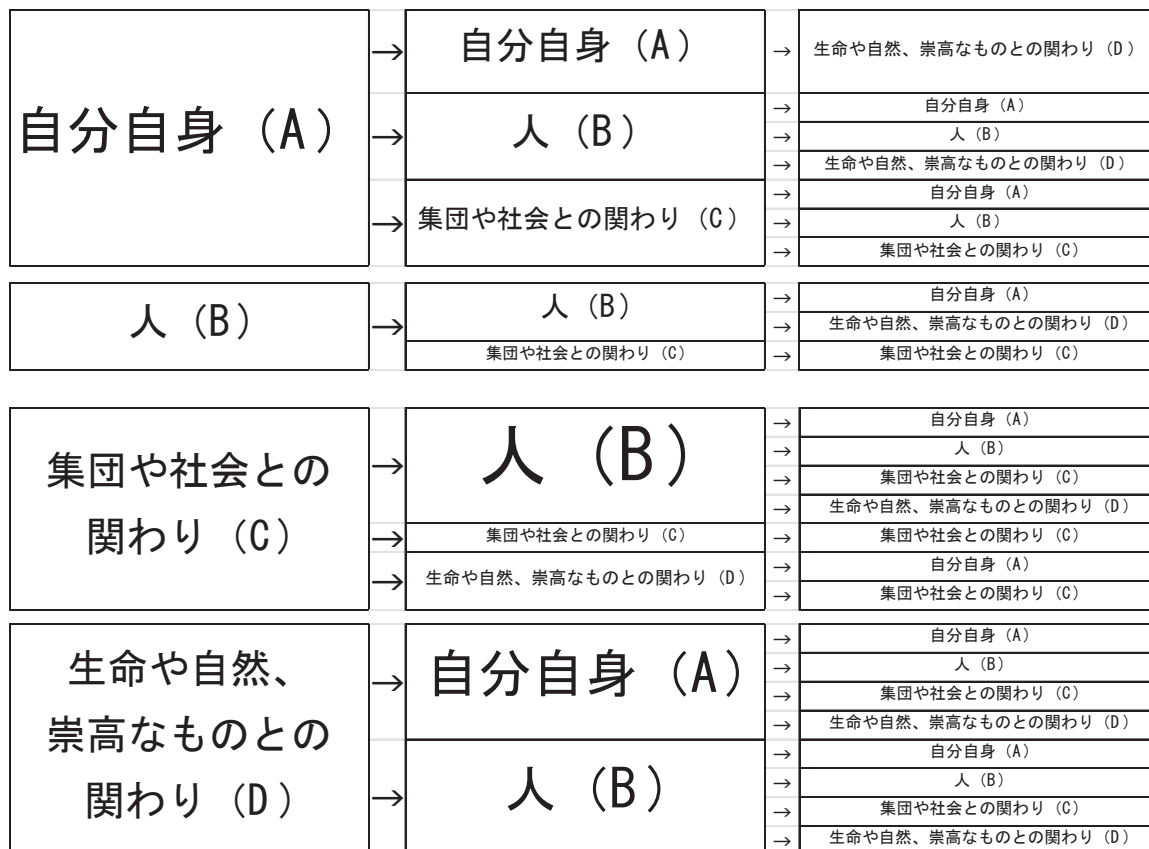


図 11. 児童の学期ごとの振り返りによる項目の変化に関する概要

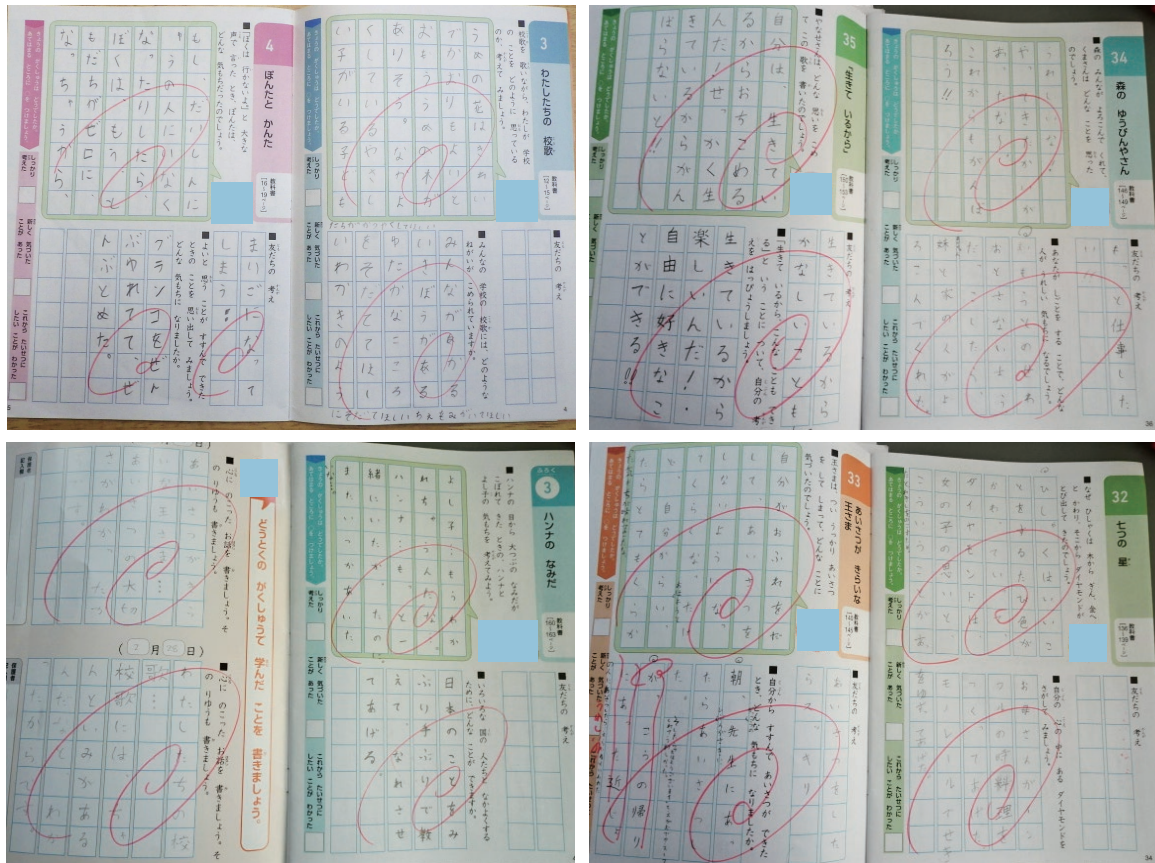


図 12. 準拠ノートの紹介

付記

本稿は、仲井（2021）が日本教科教育学会第 47 回全国大会で発表した内容を大幅に加筆・修正した。また、仲井（2022）が「小学 2 年生における特別の教科「道徳」の授業法に関する研究—主体的・対話的で深い学びを目指した 1 年間の実践から—」の論文において、今後の課題とした児童の振り返り記述に着目しているため、本稿の図 3、表 1 に関しては、その論文から、毎学期の振り返りに関する箇所を基に引用し、修正したものである。なお、本研究は、A 小学校の校長から許可を得て、倫理的配慮を行い実施した。

引用文献

- 文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説」『特別の教科 道徳編』
- 仲井勝巳（2021）「特別の教科「道徳」の振り返り指導方略に関する研究 - 毎学期の児童の振り返りに着目して -」『日本教科教育学会第 47 回全国大会（大阪大会・オンライン開催）論文集』 pp83-84.
- 仲井勝巳（2022）「小学 2 年生における特別の教科「道徳」の授業法に関する研究—主体的・対話的で深い学びを目指した 1 年間の実践から—」『兵庫教育大学大学院同窓会教育実践研究論文集』（3） pp22-30.
- 與儀峰奈子（2015）「教室において教師が用いるジェスチャーの教育的効果について」『琉球大学教育学部紀要』（58） pp95-108.

参考文献

- 藤田範子（2021）「第2章必修教科等の研究 10 特別の教科 道徳「考え、議論する道徳」を目指す授業実践 ―道徳科における評価のあり方を探る―」『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要』（63） pp122-129.
- 木村隆史（2019）「「特別の教科 道徳」の特質を生かした問題解決的な学習の在り方：指導方法の比較検討を中心にして」『東京学芸大学教職大学院年報』（7） pp81-92.
- 町畑光明・遠藤孝夫・鈴木久米男・多田英史（2020）「豊かな心の育成」に関する研究：道徳教育のマネジメントを通して」『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』（4） pp 91-102.
- 西口啓太・渡邊隆信（2020）「小学校における「特別の教科 道徳」の教科書分析：「内容項目」との関連を中心に」『教育科学論集』（23） pp1-9.
- 斉藤想能美・池田誠喜（2017）「主体的・対話的で深い学びを目指した道徳科の実践」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』（32） pp61-69.
- 島恒生・藤永芳純・小寺正一・秋山道広・飯島英世・上地完治・大野光二・大原龍一・尾高正浩・加納真・金野誠志・河合宣昌・桑田隆男・齋藤真弓・坂部俊次・櫻井宏尚・佐藤幸司・下野理史・田島明志・田代敏博・中山真樹・野平慎二・橋本康弘・服部敬一・服部敬一・福永悠人・本田正道・溝内正剛・溝内正剛・宮里智恵・椋木香子・森本嘉伸・山本洋・龍神美和・渡辺真魚（2019）『小学 どうとく 生きる力2』日本文教出版
- 杉浦勉（2019）「"特別の教科 道徳"への授業改善に関する一考察」『北翔大学教育文化学部研究紀要』（4） pp117-130.
- 杉浦勉・笠井稔雄（2018）「小学校道徳の時間の授業改善を図り「特別な教科である道徳（道徳科）」を意識した実践研究」『北海道教育大学紀要教育科学編』68（2） pp653-664.
- 多田想能美・池田誠喜（2016）「道徳的行為生起モデルに基づいた道徳の時間の実践的研究」『鳴門教育大学学校教育研究紀要』（30） pp45-54.
- 田中一弘（2020）「「特別の教科 道徳」の授業構想の在り方についての一考察：教員が感じる指導の難しさに視点をあてて」『山梨大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』（25） pp171-181.